

● 暮らし・人・環境を見つめて

# i land fill

— フェニックス広報誌 —



## CONTENTS INFORMATION

大阪湾圏域広域処理場整備基本計画を変更  
平成22年度予算概要  
「環境報告書2009」発行!  
フェニックスまつり開催!!  
「大阪湾圏域における廃棄物・海域水環境保全に係る調査研究助成事業」成果発表会を開催  
環境イベントで楽しく事業をPR!!  
ポスターをご覧になりましたか?  
上海万博に出展  
台湾環境省との廃棄物埋立処分に関する技術交流  
フェニックス掲示板 DVDプレゼント  
山本 浩之(関西テレビ放送株式会社 アナウンサー)

### リレーエッセイ

## INFORMATION

# 大阪湾圏域広域処理場整備基本計画を変更

(受入対象区域の変更や廃棄物の種類及び量の変更)

### 変更のポイント

#### 1 受入対象区域の変更

平成18年3月27日の国土交通省及び環境省の両大臣の認可後、市町村の合併等に伴い、受入対象区域を177市町村から168市町村に変更。

#### 2 廃棄物の種類及び量の変更

神戸沖埋立処分場と大阪沖埋立処分場の間での調整、尼崎沖埋立処分場の廃棄物の種類及び量の変更。

### ■廃棄物の種類及び量

(単位: 万m<sup>3</sup>)

埋立場所名	一般廃棄物	産業廃棄物 災害廃棄物	陸上残土	浚渫土砂	計
泉大津沖埋立処分場	390	720	1,270	720	3,100
尼崎沖埋立処分場	220	290	(630) 700	(460) 390	1,600
神戸沖埋立処分場	(800) 730	(400) 470	300	0	1,500
大阪沖埋立処分場	(770) 840	(350) 280	280	0	1,400
合 計	2,180	1,760	(2,480) 2,550	(1,180) 1,110	7,600

(注) ( )内は変更前の数量である。

## 平成22年度予算概要

### ■収入支出予算

(単位: 百万円)

支出の部				収入の部			
項	目	22年度予算	21年度当初	項	目	22年度予算	21年度当初
廃棄物処理費		10,205	11,093	事業収益		13,122	15,914
施設建設費		1,988	4,669	受託事業収入		1,613	3,366
一般管理費		451	587	借入金		259	733
借入金返済支出		1,910	1,956	事業外収入		309	319
事業外支出		744	2,022				
予備費		5	5				
計		15,303	20,332	計		15,303	20,332

(減少要因) 大阪沖埋立処分場建設工事の減等・委託料の削減等による廃棄物処理費の減・維持管理積立金の積立計上額の減

## 「環境報告書2009」発行!

大阪湾フェニックスセンターの環境保全と創造に関する平成20年度の取組成果を写真や図表を使ってわかりやすく「環境報告書2009」にとりまとめました。この報告書はセンターとして、最初の環境報告書となります。



### ■環境報告書の位置づけ

環境管理計画実施に係るアクションプランStep1の初年度にあたる平成20年度の取組成果をとりまとめたものです。

### ■対象期間

平成20年度  
(平成20年4月～21年3月)

### ■構成

- ①環境保全・環境創造への取組
- ②環境管理計画、アクションプランの策定
- ③環境管理計画アクションプランの取組と実績
- ④資料編

### ■公表方法

- ①関係行政機関等へ配布します
- ②センターHPに掲載しています

### ■クローズアップした事項

- ①尼崎沖埋立処分場排水処理施設の電源転換（自家発電⇒商用電力）によるCO<sub>2</sub>削減効果
- ②兵庫建設事務所での太陽光発電施設の導入
- ③神戸沖、大阪沖埋立処分場での傾斜護岸による藻場の創出
- ④大阪湾フェニックス計画フォーラムの開催
- ⑤地域活動団体、研究への助成活動



## ■フェニックスまつり開催!!



平成21年11月22日当センターでは、堺市と共催で、堺7-3区において「フェニックスまつり」を開催しました。

現在、自然が再生されつつあるこの処分地で、「ごみ」とおして環境について考えてもらおうと企画したものです。普段は見ることのできない処分地内や当センターの堺基地などを巡る見学バスツアー、ごみ処理の流れや環境保全にかかせない3Rの重要性を楽しく学んでもらうステージイベントを行いました。

そのほか、地元の小中学生等による吹奏楽や和太鼓、元気一杯のチアリーディング、ストーンアートや牛乳パックを利用した竹トンボづくりなど、多彩なイベントが盛りだくさん!!当日は、あいにくのお天気にもかかわらず、たくさんの方が訪れました。

このイベントをおして自然環境やごみについて関心を深めてもらえたのではないかと思います。

### ■堺7-3区とは

昭和46年から平成18年まで大阪府と大阪市が出資する(財)大阪産業廃棄物処理公社により産業廃棄物等を埋立てた最終処分場です。面積は約280haあり、甲子園球場の約70倍と広大なものです。

現在も処分場としての維持管理に努めつつ、一部区域については、市民、府民が気軽にレクリエーション・スポーツなどを楽しむ「みなと堺グリーンひろば」、新技術や新たなシステムを導入した民間リサイクル施設が立地する「大阪府エコタウン」、府民、NPO、企業など多様な主体と共同して森づくり活動を行う「共生の森」などに利用されています。

## 「大阪湾圏域における廃棄物・海域水環境保全に係る調査研究助成事業」成果発表会を開催

当センターの公益事業の一つである「大阪湾圏域における廃棄物・海域水環境保全に係る調査研究助成」成果発表会を、平成21年7月22日ホテルニューオーサカにおいて開催しました。発表会では、村岡浩爾（財）日本地下水理化学研究所 理事長から基調講演をいただいた後、平成20年度に助成を受けた12名の研究者から、それぞれの研究について発表いただき、活発な意見・質疑が交わされました。

1	下水汚泥由来のバイオガスに含まれるシロキサンの挙動と除去に関する研究 京都大学大学院工学研究科都市環境工学 大下和徹
2	陸起源との比較における大阪湾圏域の難分解性溶存有機物に関する特性評価 兵庫県立健康環境科学研究所水質環境部(現(財)ひょうご環境創造協会兵庫環境研究センター 所属) 仲川直子
3	大阪湾流域における生活排水由来の海域に流入する1人あたり汚濁負荷量(PLC <sub>dw</sub> )と生活排水の環境家計簿に関する研究 東洋大学国際地域学部(現 島根大学汽水域研究センター 所属) 都筑良明
4	水面埋立地に敷設される遮水工の変形挙動評価に関する研究(その2) NPO最終処分場技術システム研究協会技術向上グループ 宇佐見貞彦
5	食品廃棄物由来デンブ質の生デンブ酵素を用いた省エネルギー型糖化と連続式エタノール発酵 大阪府環境農林水産総合研究所食の安全研究部評価加工グループ 高井雄一郎
6	海面埋立廃棄物処分場酸化池における硝化活性阻害克服の検討 大阪市立環境科学研究所 西尾孝之
7	行政・研究機関等が実施するごみ質調査手法の比較研究 大阪工業大学工学部環境工学科 福岡雅子
8	最終処分場の安心設計を支援するための処分場ガスマシニングに関する調査研究 立命館大学理工学部都市システム工学科(現 国立環境研究所 所属) 石森洋行
9	海面最終処分場の安定化指標の現場調査及び安定化シミュレーションに関する研究 室蘭工業大学大学院建築システム工学科(現 くらし環境系領域 所属) 吉田秀樹
10	粗大・不燃ごみの破砕処理残渣の汚濁物質溶出特性と実態調査 明星大学理工学部環境システム学科 宮脇健太郎
11	オゾンを活用した高濃度塩分含有廃水からの微量有害有機物質の除去特性と流域・沿岸海域水環境保全に関する基礎的研究 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 西村文武
12	浸透処理型湿地浄化法による最終処分場浸出水の硝化・脱窒処理に関する研究 東北大学大学院工学研究科 中野和典

(敬称略)



## ■環境イベントで楽しく事業をPR!!



当センターは、近畿2府4県168市町村から排出される廃棄物を安定的かつ安全に処理することにより、市民生活の環境保全に大きな役割を果たしています。

しかしながら、フェニックス事業の現状や環境に配慮した取り組みについては、市民の皆様にはあまり知られていないのが現状です。

そこで、府県や市が開催する環境イベントに積極的に参加し、パネル展示やスライドショーをおして、広くセンター事業の紹介を行っています。そのひとつで昨年11月21・22日開催の「京都環境フェスティバル2009」では、漫才コンビの「海原やすよともこ」「ミサイルマン」によるミニステージを企画し、漫才やクイズによって、多くの来場者にフェニックス事業に対する理解を深めてもらうことができました。

今後も積極的に環境イベントに参加していきますので、ぜひ会場に足を運んでいただきたいと思います。

イベント名	主催者	開催日時	開催場所
国際フロンティア産業メッセ2009	兵庫県 神戸市	9/3-4	神戸国際展示場
環境フェア	奈良県	9/22	なら100年会館
びわ湖環境ビジネスメッセ2009	滋賀県	10/21~23	長浜ドーム
エコアートフェスタ大阪2009	大阪市	10/31-11/1	海遊館前広場
ひょうごエコフェスティバル2009	兵庫県	11/14-15	但馬ドーム周辺
京都環境フェスティバル2009	京都府	11/21-22	パルスプラザ

## ■ポスターをご覧になりましたか?

右のポスターを見たことはありませんか? 昨年の8月と10月のそれぞれ2週間、大阪市営地下鉄のすべての駅構内の公共情報コーナーに貼り出されたんですよ。近畿2府4県の市町村関係先にも貼り出させていただき、今年も新しいポスターを作って貼り出す予定です。

あなたの街でも、フェニックスちゃんのポスターが貼ってないか探してみてくださいね!!



## DVDを50名様にプレゼント!

このたび、当センターでは新たに広報用DVDを作成しました。ニュース形式で、スタジオと現場のやり取りを通じ、楽しくわかりやすく当センターの事業を紹介しています。

このDVDには「日本語版・英語版・中国語版」の3種類が1枚に入っています。当センターのHPにも掲載しますので、ぜひご覧ください。

ご希望の方は、ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、性別をご記入のうえ、当センター総務課「DVDプレゼント係」までご応募ください。

## ■上海万博に出展

「環境先進都市・水都大阪の挑戦」を基本テーマとした大阪ブースに、出展します。

約2,000万人が暮らしている近畿圏から発生する廃棄物を適正に埋立処分を行い、できた土地を活用するという大阪湾フェニックス計画の紹介を行います。



### 【上海万博の概要】

- 名称: 中国2010年上海万国博覧会
- テーマ: Better City, Better Life (より良い都市、より良い生活)
- 開催場所: 中華人民共和国 上海市
- 会期: 2010年5月1日～10月31日
- 参加国・国際機関: 200カ国・国際機関(目標)
- 入場者数(目標): 7,000万人

## ■台湾環境省との廃棄物埋立処分に関する技術交流

中華民国環境保護署(環境省)の要請を受け、3月7日から11日の間、古川副理事長と林参事兼企画課長が、台湾を訪問し、埋立技術や廃棄物処分に関する技術交流を行いました。

現地では、沈世宏大臣主催の「台日廃棄物資源填海造島研究会」が3日間にわたり開催され、センター側からは「大阪湾広域臨海環境整備事業」の紹介やフェニックス事業のシステムの説明を行うとともに、台湾側からは「台湾の廃棄物処理及び最終処理の現状」、「台湾の埋立地関連政策及び現況」及び「高雄市の南星地区廃棄物埋立計画」の説明があり、活発な議論が行われました。また、台北港の埋立計画や高雄市南星地区の廃棄物埋立地を視察し、現場でも意見交換を行いました。

今回の訪問では、日本と台湾における埋立や廃棄物処分を取り巻く様々な環境の違いや共通する認識について有意義な議論を重ね、

今後も意見交流を続けていくことを確認し合い、5日間の訪問を終えることができました。



(写真中央)沈世宏 大臣



「台日廃棄物資源填海造島研究会」での議論の様子

## リレーエッセイ



### 「道を拓くのは子供たち」

関西テレビ放送株式会社 アナウンサー

やまもと ひろゆき

山本 浩之

#### ■プロフィール

1962年 大阪府堺市生まれ。  
1985年 関西テレビにアナウンサーとして入社。  
スポーツ、情報番組を経て、90年から報道番組を担当する。現在「スーパーニュースアンカー」キャスター。  
趣味…ギター、料理

最近、とびっきりの小料理屋を見つけた。梅田のはずれ、関西テレビからそんなに離れてない場所で、店を出して10年以上になるという。出される料理にハズレ無し!おまけに、どれだけ食べてどれだけ飲んでも7,500円以上取らない。勿論、3,000円分しか飲み食いしなければ3,000円でよいのです。手書きのメニューには30種類以上のご馳走が…どれもホントにうまい。お店紹介のエッセイではないのでこれくらいにするが、常連客に同業者が多いということでこの店の実力はわかってもらえるでしょ?

ここからが本題。大将がこのシステムを導入したのは、旨いもん、懐を気にせず、腹一杯食べてほしいからという理由で、これまでに大食いタレントのギャル曾根さんのような女性がびっくりするほど食べて帰ったこともあるらしいが、大将曰く「完食してもらえるのは納得できるが、中には食べもしないのに数多く注文するだけして平気で残して帰る客、あれは我慢でせん!」。当然だろう。大量の生ゴミだけが残されるのだから…。これを極端な例と、笑ってばかりもいられない。量の大小はともかく、ゴミを出すことに慣れっこになり罪悪感を覚えぬ。問題なのは、その感覚なのです。

確かに、人は生きていく上で必ずゴミを出す。文化度が上がれば上がるほどゴミは増える。だから「フェニックス計画」のような事業はなくてはならないのだが、果して、行政の取り組みに市民が応えているといえるだろうか。全国の自治体でゴミの有料化が導入されつつあるが、不法投棄の増加、あるいは減った分の家庭ゴミが事業ゴミに回るなど、新たな問題が…これすべて人間の所業。あきれれるほど多くのゴミ袋を出している主婦に「ちょっと出しすぎと違います?」なんて言っても逆に怒やされるのがオチだ。もうこうなると「ゴミを減らしましょう」と唱えるだけでは問題は解決しない。分別をわきまえない大人に何を言ってもヌカにクギ。それなら、子供の学校教育に思い切って予算をつぎ込

めばどうかと、私は思う。ひとクラスの児童数を30人にするとともに、優秀な教員の数を確保する。イメージは江戸時代の寺子屋かな。子供は大人次第で変わるもの。学力テスト最下位なんて嘆いているが、しつけが出来れば学力は後から身につくものです。

ただし、この世知辛い世の中に心温まる話もあるもので、「スーパーニュースアンカー」で取り上げた話だが、昨年、インドネシアのジョグジャカルタ特別州の川に、枚方市の牧野歩道橋の橋げた部分が移設された。きっかけは、枚方市立第三中の生徒会メンバーが、現地の中学校に手紙を送ったこと。費用は企業の協賛金や自治体の助成金で工面した。実はその前年にも守口市の歩道橋が移設されており、大阪府では今後も年に1ヶ所程度の移設を検討しているが、こうした交流に子供たちの活動が深く関わっていることが意義深い。この他にも使わなくなったランドセルを全国から集め、アフガニスタンやモンゴルに送る事業をNGO組織「ジョイセフ」が6年前から続けている。配ったランドセルはこれまでに6万5千個。子供たちはうれしくて家まで走って帰るほど喜んでくれるというが、受け取った側だけでなく、送った側の子供たちの心の中にも何か変化が起きるはずだ。

こうした事を「特別な取り組み」ではなく「当たり前」と思える教育を、将来のためにしなければならぬと私は考える。せっかく馴染みになった小料理屋の大将が「最近、食べ残しがめっきり少なくなりましたわ」と笑顔で言う日が来るまで、まだ相当時間がかかるかもしれないが、地道に取り組んでいけば必ずや道は拓けるはずだ。



## 編集後記

今、廃棄物を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。

地球規模での環境問題が深刻化し、温暖化対策として廃棄物の発生量を少なくすること、再資源化(リサイクル)を進めていくことが重要となっています。

センターでは、限りある埋立処分場を少しでも有効に利用できるよう、これまでも3R活動の推進など様々な活動を行ってきました。今回の13号では環境報告や環境イベントなどその取り組みの一部も紹介しています。

また今回は、フェニックス計画が先進的なシステムであることから、台湾から技術指導の要請がきたり、今年の上海万博ではセンター事業の紹介を通じて、国内外にセンター事業をより広く知ってもらおう計画があるといった国際的な記事も掲載しています。

ごみの減量化は皆さん一人ひとりの努力によって達成されるものです。今こそ、一人ひとりが真剣に考えることが必要な時と痛感しています。限りあるフェニックス埋立処分場を大切に使用するため、今後とも皆様のご協力をお願いします。

ご意見やご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

(編集スタッフ一同)

# i land fill

Vol. 13

発行:  大阪湾広域臨海環境整備センター  
大阪湾フェニックスセンター

http://www.osakawan-center.or.jp  
〒530-0005  
大阪市北区中之島2-2-2 大阪中之島ビル9階

T E L 06-6204-1721(代)

F A X 06-6204-1728

E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp

i Land fill は当センターホームページにも掲載しております。



2010.03

この印刷物は大豆インクを使用しています。